
ずっと一緒

知恵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ずつと一緒

【Nコード】
N5280A

【作者名】
知恵

【あらすじ】
男同士の恋です。興味ない方はすいません。

「やっぱりこっちの帽子のほうがいいよ。」

そう言つて雄太は赤色のキャップを手にとつた。

「そうかな？俺って、明るい色似合わくない？」

将也はその帽子をかぶつて、鏡を見ながら言つた。

雄太と将也は同じクラスになったのがきっかけで仲良くなり、暇さえあればこうやって二人でどこかへ出かけることが多かった。

その日は、二人とも部活がなかったため学校帰りに買い物に出かけていた。

「似合うと思うけどなあ。」

雄太は鏡を覗き込みながら言つた。

その悩んでいるような顔が妙に可愛くて、将也は観念したように言つた。

「雄太が言つんなら・・・買う！」

「えっ、マジで？いやだったらしいのに。」

「いや。こういうの一個持つといたほうがいいだろ？」

そう言つて将也はレジに向かった。

買い物が終わつたあと、帰りの電車賃しかなくなった二人は公園に

行った。

空はもう真っ暗で、時刻は八時をまわっていた。

「はぁーなんか疲れたなあ。」

雄太はブランコに腰掛けながら言った。

「うん。疲れた。」

将也は周りの柵に腰掛けた。

「俺さ、お前に相談があるんだ。」

雄太は話し始めた。

「何？」

「同じクラスに村上いるじゃん？」

「ああ、村上陽子？」

「うん。実はそいつに告白されちゃってさ。」

「えっ・・・」

「俺今まで誰とも付き合ったことなくて、どうしたらいいかわかんないんだよなあ。」

雄太は頬を赤らめながら言った。

「・・・雄太は村上が好きなの？」

「俺？俺は・・・別に。てか、不細工じゃなければいいや。」

「ひどいなあ。お前。」

「もし村上と付き合うなら、キスとかうまくなきゃ嫌われちゃうなあ。俺、一度もないから練習しなきゃな。」

「じゃあ、俺としてみる？」

最初はふざけてるんだと思った。
うつむいている将也に近づき、手をヒラヒラさせながら言った。

「将也？まーさーや。将也くーん？」

将也はいきなり雄太の手をとり、強引にキスをした。

将也の舌が雄太の中に入っていく。

雄太から小さな息が漏れた。

「はっ・・・」

雄太は一生懸命将也を離そうとするが力が強く、ビクともしなかった。

雄太は思いつきり将也の唇を噛んだ。

「イタっ。」

将也の口から血が流れた。その姿を見て焦った雄太はワイシャツの袖で血を拭いた。

「ごめん。痛かったよな。ごめんな？」

将也は笑った。その姿にムツとした雄太は怒った口調で言った。

「何がおかしいんだよ。」

将也はくすくすと笑いながら言う。

「男にキスされたんだぞ？それがどういう意味だかわかってんの？」
「・・・将也は俺が好きってこと？」

雄太は将也の目をジッと見ながら聞いた。

「そう。俺、ホモなんだよ。」

「えっ・・・俺とお前はただの友達じゃないの？」

「少なくとも俺はお前が好きだから近づいたんだよ。」

落ち着いた様子の将也がどこか大人びて見えた。

「ごめん。何言ってるんだろな、俺。」

「・・・いいよ。」

「えっ？」

雄太は笑いながら言った。

「実はカマかけてたんだ。お前いつもはつきりしないからさあ。」

「・・・じゃあ、村上の話は？」

「嘘に決まってんじゃない。」

将也は啞然としていた。

「ごめんな。」

雄太はニコツとして将也を見た。

そんな雄太が可愛くて、将也は雄太をギュッと抱きしめた。

「なっ、もう一回キスしよう？」

雄太は抱きしめながら言った。

「うん。」

そう言って二人は優しく甘いキスをした。

そして、おでこをくつつけ雄太がつぶやいた。

「ずっと一緒にいような。」

将也は微笑みながら答えた。

「うん。ずっとな。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5280a/>

ずっと一緒

2010年11月16日08時37分発行